

まとめにあたり

緊急提言

G11 各々の部会で、各々のテーマについて掘り下げた活発な議論の結果が発表された。そして、どの部会からも“あたらしいモノサシ”を志向し創りだす視座には、必ず共通する提言があった。

私たちの “いのち”そのものへの、今、再びの“気付きと感謝”,というとらえかたの必要性である。

このプロセスぬきに、どのテーマにおいても、よりよき未来への地図は描けないという共通認識を得ることができた。

とりわけ、ここ、開催地“小田原モデル”を考える、という共通テーマの議論の中で、第3回ローカルサミットを閉じるにあたり、『環境部会』と『アジア部会』からの緊急提言がなされ、ローカルサミット出席の志民総意として、ひろくその提言を発表し、実行へと努力を続けていくことが確認された。

『環境部会』からの提言

* 『森里海連環基本法（憲章）』策定にむけた志民運動の開始を！

*その具体的フラッグ行事として

6月第一週末の翌月曜日を 国民の祝日に！

(6月はじめの植樹祭+稚魚放流祭 ÷ 2 = 森+海！加えて 6月にだけ祝日がない)

*問題提起のための『シンポジウム』等の開催を！

『アジア部会』からの提言

* 『小田原モデル』とは、言い換えれば 『豊かな海と 豊かな森に囲まれた 豊かな里での暮らしかたの再確認と再構築』ということでもある。

東京からのほどよい近距離ぶりを発揮し、かつ、地元の人々にとっては『アタリマエ』にすぎ、感謝どころか、認識することすらなく

なってしまった、この自然の恵み（森・土・海）の豊かさを再び認識

再構築するための『原体験プロジェクト』とも呼べる具体策を官民挙げて創りだそう！（無尽蔵プロジェクトと共創しながら）

*そして、かつての第二次大戦はもとより、それ以降も、平等な関係性ではなく、経済至上主義驀進の下、ひたすら資源や市場としてしか捉えてこなかったアジア各国への『恩返し』としての意味もこめて、そうしたプロジェクトを通した新しい繋がりを創っていこう！

ローカルコミュニティが、食糧やエネルギーといった“いのち”をゆたかに育むための循環のマネジメントを、自身で自信をもって営めるようになることこそが、わたしたち LS のひとつの目標であり、ミッションだと考える。

それこそが、ひいては、我が国、日本のこれからの成長と貢献の軸にもなることも、アジア部会では確認した。

『ローカルサミット』という日本各地域が主体となって、『懐かしき美しい いのちの未来を拓いていく』という共通の目標を設定し、共に、アジア諸国とのネットワークを繋げていくことを、今後のローカルサミットのテーマの軸としていくこと。その第一歩として、ここ、小田原の地においても、具体的な「留学生原体験プロジェクト」等をたちあげ実行していくことを提言する。

森里海連環基本法(憲章)

人間は、今一度、生きとし生けるものの「いのち」の原点に立ち返り、人間が森里海の連環する大いなる地球の自然・生態系に包まれて存在し生かされていることに目を向け、自然と人・人と人とは全てつながっているという価値観をいかに取り戻すことができるか、そのような価値観に基づいて人間活動をいかに利他的なことに喜びをみいだせるように軌道修正できるかが、真に問われている。

このような「生命文明」の時代における人間のあり方、自然・生態系へのまなざし、「いのち」への洞察を、共通の了解として確認し、それに基づく人間活動の軌道修正を可能とするべく、

「森里海連環基本法（憲章）」の策定が急務である。

(中略)

多様性に溢れる豊かな海、そして森と水に恵まれた大地・自然からなるわが日本、そしてそこで「いのち」を営む日本人こそが、この法（憲章）の具体的策定を行い、人の自然への働きかけの再構築を通じて温暖化や食糧問題、更には人間活動を取り巻く諸問題を解決するための懐かしい未来へのグランドデザインを描き出す。それをアジア・世界に発信していく。このことは人類史において日本人に課された歴史的使命ともいえるものであり、そうした観点から幅広い志民運動を今後強力に展開していくこととする。